

茅花流し

松岡隆子

一 跨ぎほどの野川を跳んで夏
木漏れ日の白きを踏みて夏に入る
真つ直ぐに来て万緑の端にをり
万緑に盲ひしごとく佇める
十薬の放任されて耀けり
殿は青年教師森五月
卯月野の空の広きを鳥翔けよ

夏蝶の越ゆるに湖の眩しすぎ
引き返す吊橋長き若葉冷
沢瀉の音なき雨に昏れゆける
ふり返る径の昏くて時鳥
帰りたくなき日の茅花流しかな

コロナ禍による、三度目の緊急事態宣言の解除は5月31日まで延長となり依然として巣ごもり状態が続いている。変異株の増殖による感染者数の増加を憂いながらも、漸く始まったワクチン接種に望みを託す日々である。会員の方々からも予約が取れたとか二度目の接種も終わったなどという明るい声が届くようになった。来年の4月に予定している創刊五周年記念大会の企画も進めていけそうだ。詳細は後日となるが、本号に日時と会場を発表した。感染拡大の終息を祈りつつ今度こそ共に集い合えることを信じその日を待ちたい。